

# 内定者の声

令和3年度 環境省総合職事務系内定者



# 目次



1章 内定者統計
· 内定者統計······3
・環境省の魅力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・2020年度国家公務員総合職試験・
官庁訪問の流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・7
[17] [17] [17] [17] [17] [17] [17]
2章 試験対策・・・・・・・・・・・・・・・・
·院卒(行政)区分·······
・院卒 (法律) 区分・・・・・・・・13
·大卒(経済)区分······15
・大卒(政治・国際)区分······23
八平(政治・国际)区方・・・・・23
<b>3</b> 章 官庁訪問対策・・・・・・・28
· 官庁訪問対策·······29
・官庁訪問の一日の流れ・・・・・・・47
・官庁訪問での質問例・・・・・・・48
4章 座談会50
・オンラインでの面接について・・・・・51
・インターンについて・・・・・・53
・地方学生へのアドバイス・・・・・・55

# 第1章



# 内定者統計

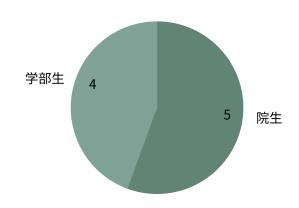
# 内定者統計

# 最終学歴

・東北大学大学院 1人・東京大学大学院 1人・京都大学大学院 1人・一橋大学大学院 2人・東京大学 1人

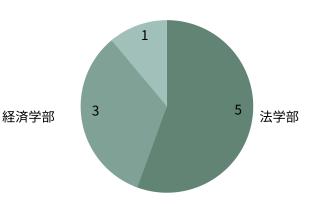
・<sup>東京人子</sup> 1人 ・京都大学 1人 ・大阪大学 1人

・慶応義塾大学 1人

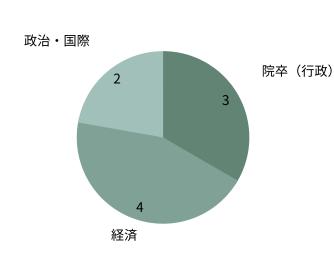


# 出身学部

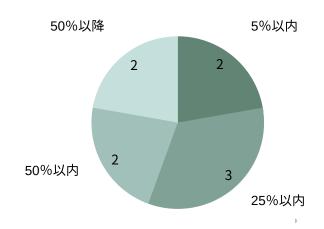
理学部



# 試験区分



# 席次



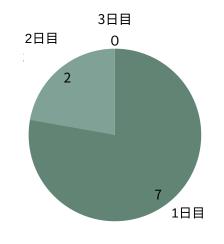
# 予備校の利用有無

# 無 5

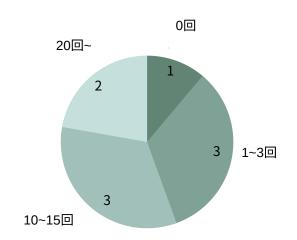
# 民間の併願有無



# 事前面談会の環境省訪問日



# 説明会参加回数



# 出身地

・東京都 3人 ・神奈川県 1人 ・埼玉県 1人 ・長野県 1人 ・兵庫県 1人 ・大阪府 1人 ・福島県 1人

環境省以外の訪問先としては、 金融庁、厚生労働省、国土交通省、 総務省、内閣府、農林水産省 などがありました。 志望先について詳しくは、 3章 官庁訪問対策を読んでみてください!

# 試験区分

区分/年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
教養	1	0	1	0	0	3	1	0
法律	6	7	2	2	1	2	4	0
経済	1	3	1	2	1	1	1	4
政治・国際	0	0	0	1	1	0	3	2
院卒(行政)	2	2	2	0	2	2	3	3
合計(内女性)	10(3)	12(4)	6(3)	5(2)	7(2)	8(3)	12(6)	9(2)

## 環境省訪問日

	2018	2019	2020	2021
1日目	5	5	5	7
2日目	1	2	5	2
3日目	1	1	1	0

\*2020年度内定者のうち1名は第2クール1日目から訪問

近年の内定者統計を見ると、 どの区分でも、3日目訪問でも、 採用の実績があります!

# 説明会参加回数

	2018	2019	2020	2021
0回	2	0	2	1
1~9回	5	5	7	3
10回以上	0	3	3	5

# 環境省の魅力

# 職員の方々の人柄

- ・穏やかであたたかい方が多い
- ・楽しそうに仕事をしている
- ・3省庁回ったなかで、最も真摯に向き合ってくださった

## 上下関係のフラットさ

- ・良い意味でラフな雰囲気。フランクにモノが言える
- ・若手が積極的に活躍できる
- ・固くなく、張り詰めた感じがない

#### 未来をつくる仕事

- ・未来を考えることができる
- ・長期的な視点から日本全体のことを考える
- ・これからますます重要となる分野を扱っている

# 仕事の幅広さ

- ・環境以外の社会問題にも目を向けている
- ・環境を軸に、幅広い分野の仕事に携わることができる
- ・国内外あらゆる場所で活躍するチャンスがある

# その他

- ・環境問題に取り組める!!
- ・新しい働き方を積極的に取り入れている(フリーアドレス制、 テレワークなど)
- ・しがらみが少ない
- ・科学に基づいて、公平な政策を主張できる

# 変更前 (通常通りの予定)



#### 【事前面談会】とは

国家公務員志望者が、志望府省等から個別 面談・グループ面談等の方式で業務等の 説明を受け、同時に、府省等の側も志望者 のことを具体的に知る機会。 別途行われる官庁訪問において、公平かつ

別途行われる官庁訪問において、公平かつ スムーズに選考を行うために、事前に マッチングを積極的に進める役割を担う。 (人事院HPより) \*2020年度の採用プロセスは、 新型コロナウイルス感染症拡大 の影響により、例年のものと 大きく異なりました

# 変更後 (今年度限り)

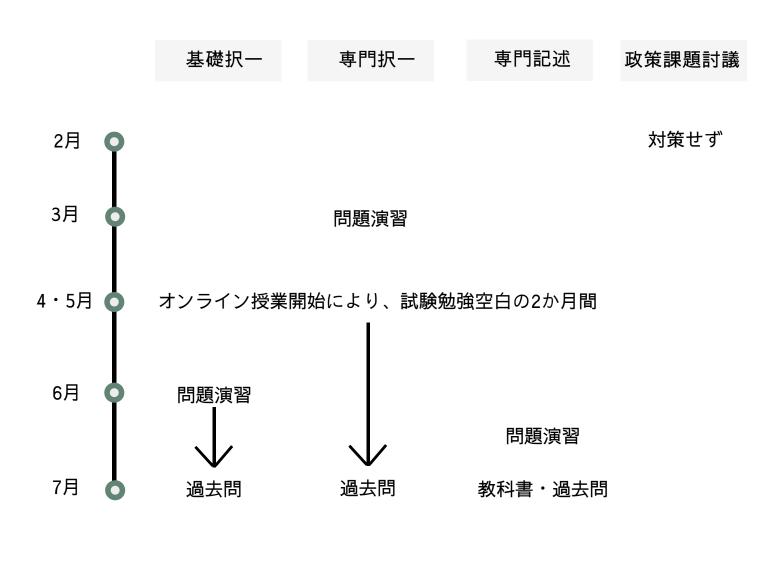


# 第2章



# 試験対策

# 【院卒】 行政区分の勉強法(東京大学公共政策大学院)





# リフレッシュ方法

追い込まれないとやらない性格なので、直前 (10日前)まで何もせず好きに過ごしたのが一番 のリフレッシュ法で、自粛期間中にYouTubeに上がっているオドぜひをほぼ全部見ました笑。 ガチで勉強している時のリフレッシュは自然の動画を見ることでした。



# 独学のメリット・デメリット

1次試験対策は独学で十二分に可能。安いし。記述は解答例をもらえる予備校が有利だけど大学の定期試験の感覚で「単位来たな」≒120点くらいになるはずです。知識の蓄積がそれなりにあれば予備校に行くメリットは小さいかなと思います。

直前に判断推理・数的処理の頻出分野の問題集を解きました。本番では簡単な文章理解・資料解釈に時間をかけて満点を狙う作戦がハマりました。時事は、普段からニュースを見ていれば試験当日の休み時間にざっと時事の参考書に目を通せば十分です。

## 専門択一

知っている知識と知らない知識で差があったので、知らないところは google docsにノートを作りました。なんなら試験前日までまとめノートを作っていました。いきなり問題集を解いていくのが基本的には賢い勉強法だと思います。

#### 専門記述

国際関係は大学の教科書を読みました。今年の試験委員的に国際政治経済は丁寧に勉強しました。公共政策は、参考書を流し読みした程度ですが、常識的なことを書けば大丈夫。本番では多角的視野と、施策によるトレードオフを意識して書きました。

#### 政策課題討議

今年は院卒区分に政策討論がなかったので割愛させていただきます。

# 人事院面接対策

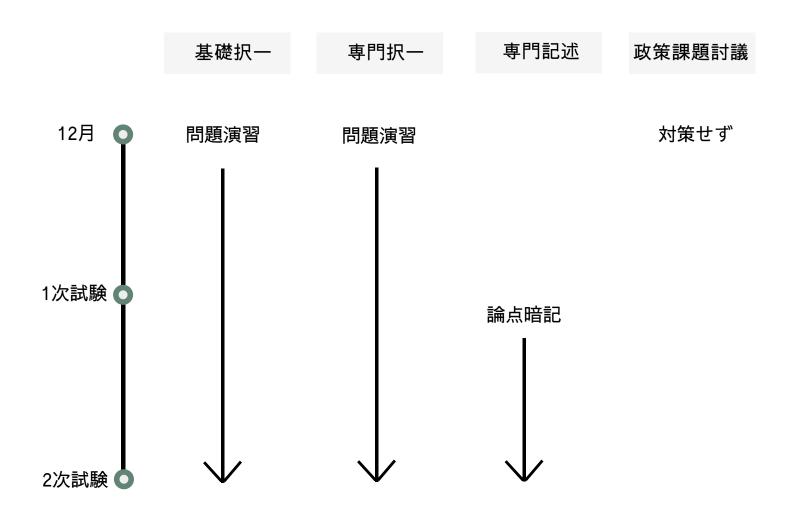
# 準備したこと

ESを書いて友人と添削し合い、どんな質問がくるかイメトレしました。人事院面接のESは字数が短いため、抽象的に書いて自分がして欲しい質問をしてもらうよう誘導するという意識でいるといいと思います。

# アドバイス

ピリピリはしていましたが、官庁訪問も終わっていたし楽観的な空気も流れていたと思います。電子端末は触れないので本を持っていくといいです。あと、髪を切りワックスでセットする・靴を磨く・眉毛を整え生毛を剃るなど、身だしなみにめちゃ気を使いました!笑

# 【院卒】行政(政治・国際)区分の勉強法 \_\_\_\_\_\_\_(一橋大学大学院国際・公共政策大学院)





リフレッシュ方法

- ひたすらゲームをやるなど、一切勉強 しない日を設ける
- ・ 説明会に参加する
- ・ 体を動かす



予備校のメリット

- ・ 予備校で配布されるレジュメは、市販の教材よりも 試験対策に特化しており、役に立ちました
- スケジュールが決まっているので、ペースがつかみ やすいです
- ・ 予備校も独学も問題集を回すことが主な試験対策と なるため、上の2つ以外にメリットは感じませんでした

使用教材: 予備校配布の問題集

数的処理の問題集で難易度B頻度Bの問題までを、5回ほど解き、解 法パターンを身に付けました。院卒区分は問題数が少ないため、他の 基礎択一対策は行っていません。

#### 専門択一

使用教材:予備校配布問題集、予備校配布レジュメ、市販の教科書など レジュメを一読してから予備校配布の問題集を解きました。法律科目 については3回ほど、政治系科目と財政学については2回ほど解きました。

#### 専門記述

使用教材:予備校配布の記述試験用教材、市販の教科書

過去問を見て大体の傾向を掴み、テキストの用語を説明できるように キーワード、論点をノートにまとめ暗記しました。対策は1次試験後に 開始しました。

#### 政策課題討議

今年度は集団討論がなかったため、対策は行っていません。 仮にあった場合でも、市販の教材で時事問題を確認する以外に準備は しない予定でした。民間企業の選考に参加することは、一つの対策であ ると思います。

# 人事院面接対策

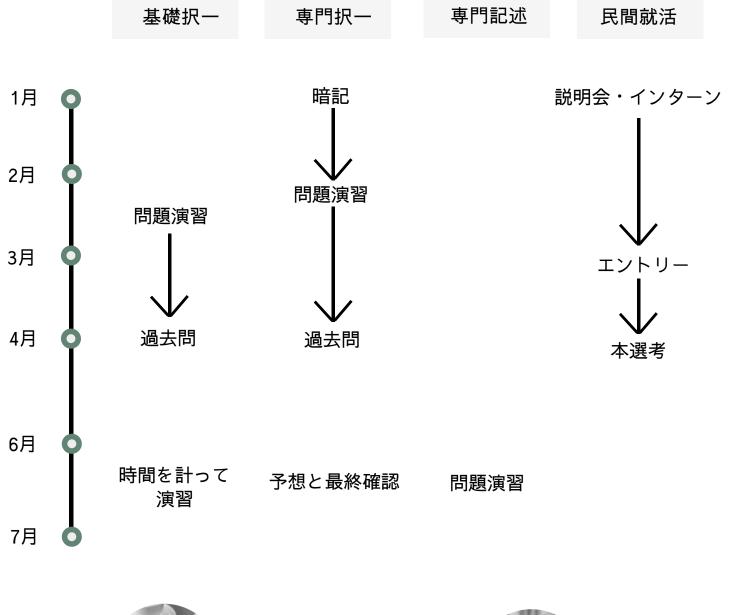
# 準備したこと

環境省ではなく、国家公務員の志望動機を書くように意識しました。 また、市販の時事対策教材で時事についても確認しました。

# アドバイス

面接カードは提出用3部と自分用1部あると待ち時間を潰せます。待機中は会話もなく待っていたと記憶しています。順番によってはかなり待つようです。時間も短く、あまり厳しい内容ではないのでリラックスして臨んでください。

# (一橋大学大学院国際・公共政策大学院)







- ・外に出て散歩したり走ったり体を動かす。
- ・民間就活をして、自分の進路なども含めて頭を 整理する。
- ・人と話す。
- ・ノートに不満などを書き溜める。
- ・テレビでプロ野球観戦。贔屓チームが負けると 何もする気が起きなくなるので注意が必要です。



予備校のメリット

学部の頃に予備校に通い、院では予備校に通わずに 独学で勉強しました。

両方経験したうえで、予備校の良い点は過去問を入手できることや模試を受けることができることです。 ただ、試験合格のみを目標にするのなら受ける必要のない講義もあるのでそこにもお金を払うことは考えておく必要があります。過去問を探して手元にある状態であれば独学でも全く問題ないと思います。

教養区分も受けたうえで、数的処理で半分くらいは取れるという感覚があったので、直前期に資料解釈と判断推理を繰り返し演習して時間内に取り切る練習をしていました。院卒区分は時間との戦い(大卒より試験時間が短い)なのでそれぞれ何分くらい必要かを決めて、本番に焦らないようにしていました。

## 専門択一

民法は改正していたので、多めに時間を割いて理解に努めました。法学部であったため、履修済みの他科目については理解よりも問題演習中心にして、憲法・行政法は過去問を3週しました。直前期には、10年分の過去問から出題予想をして、明らかに出ないであろう分野はやらないという選択をしていました。

#### 専門記述

全くいい出来ではなかったので、言えることはあまりありませんが、やったこととしては論文構成をたくさん行い、決まった文言を覚えるという形で行っていました。1次試験後から始めて、問題集を1周してから本番に臨みました。反省点は、時間配分と書く訓練をあまりしていなかった点です。来年以降の受験生の方は気を付けてください。

#### 民間就活

最終的に15社ほどエントリーしましたが、第一志望は国家公務員だったので負担にならないようにとどめていました。年内にはある程度業界を絞って、2月までにESのひな型部分は作っておくべきだと思います。YouTubeで色々な対策動画などもあるので、活用してみるのも一つの手かと思います。面接で緊張することはなくなりました。

# 人事院面接対策

# 準備したこと

面接カードは友人を頼りに数人に添削してもらいながら、良い表現や伝わりやすい書き方を意識していました。その後、想定質問を書き出して備えました。本番はマスクをしながらだったので、分かりやすくはきはき話すことと端的に面接官に伝えることを心掛け、自己満足に終わらないようにしていました。

# アドバイス

私は、試験会場でたまたま斜め前に同じ所属で今は共に環境省内定者のR.S君が座っていたため、面接までの時間は談笑していました。そのおかげか、本番は緊張などはせずにリラックスして臨むことができました。話過ぎない、対話を心掛ける、最後まで言い切るという点を注意していれば問題ないと思います!

# 【大卒】 経済区分の勉強法(東北大学理学部)

専門択一

~12月 ● 授業&宿題
 1月 ● 問題演習
 3月 ● 問題演習
 4月 ● 過去問 過去問 時事を確認



基礎択一

# 研究との両立法

研究室に配属し、かつ研究している分野との関連性はかなり低くゼロからの勉強だったので最も重要だったのは時間管理だと思う。例えば、研究の息抜きに問題演習をして、試験勉強の息抜きに実験をするようにしていた。実際、どちらかが上手くいかないときに逃避できるので一番ストレスが少ないと思う。



専門記述

政策論文

予備校のメリット

- ・科目の勉強の仕方がすぐわかる
- ・知識の関連性がすぐに捉えられる
- ・学習のペースが掴める
- ・新しい人脈が増える
- ・人事院面接に特化した面接練習をしてくれる
- ・授業開始時間を基準にして1日の実験計画を立てられる

3月になって時間を計って国総の数的を解いたところ時間がなくて 焦る。3月の勉強時間の半分は数的に当てたが、結局予備校の問題集 を1周できずに終わった。

## 専門択一

講座の問題集を3周ぐらい回して、完全に理解した状態で解けるようにした。法律系科目は経済系科目に比べ、知識が定着するのに2倍以上時間がかかった。

### 専門記述

択一で得た知識をもとに記述できるように大問を10問ぐらいは解いた。FP資格も取っていたので財政学の問題で多少役立った。

#### 政策論文

政策論文は抑えるべきポイントを外さないことを意識した。時事の 参考書を読み込んだ。

# 人事院面接対策

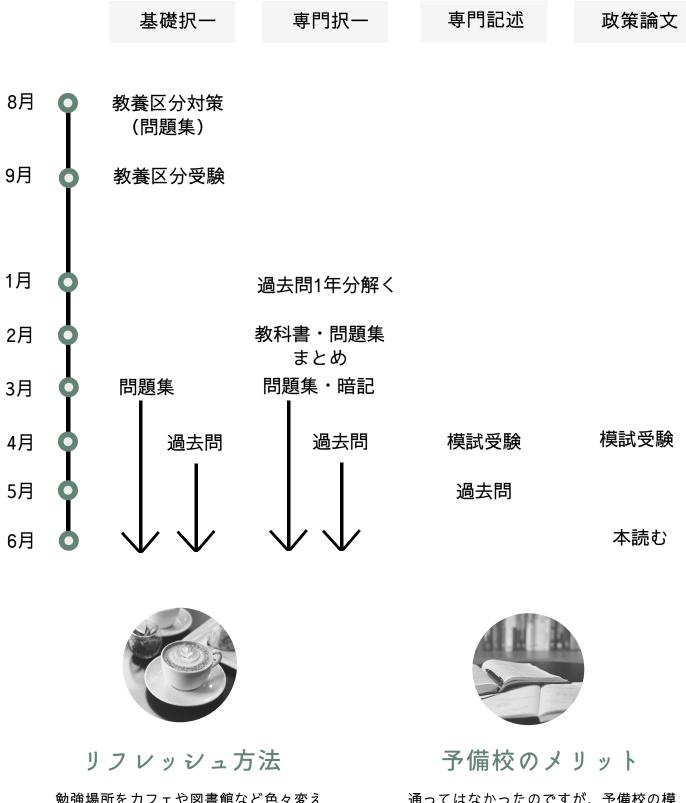
# 準備したこと

予備校での面接練習で3回ほど練習した。2人の講師の方に見てもらって同じような質問をされたので、その質問には確実に答えられるようにした。

# アドバイス

基本は面接カードに従って質問される。それも短時間のためどんな質問が出るか予想できる、または質問が誘導できるような面接カードを作ると良い。十八番の解答ができれば、気分良く会場から出れるので、合格発表まで気が楽。

# 【大卒】 経済区分の勉強法(東京大学経済学部)



勉強場所をカフェや図書館など色々変えると気分転換になりました。また、勉強しているとどうしても人と話したり体を動かしたりする機会が減るので、サークルやバイトの予定をたまに入れておくと良いリフレッシュになると思います!

通ってはなかったのですが、予備校の模試と記述添削サービスを利用しました。独学だとなかなか周りの受験生と比べて自分がどの位置にいるのかわからないし、記述の書き方も我流になってしまいがちなのでオススメです。

- ・過去問:春休みから科目ごとに毎日1~3問解くようにした
- ・問題集 (数的処理、判断推理、人文科学)
- ・時事の参考書

## 専門択一

- ・過去問:春休みから始めて各年度を2周くらいした。もう少し早めに解き 始めるべきだったと思う
- ・問題集(ミクロ、マクロ、財政学):ノートに要点をまとめてから問題演習
- ・教科書

# 専門記述

予備校の記述模試、記述添削サービス

# 政策論文

- ・試験委員の本を読んでまとめる
- ・記述模試の復習(採点ポイントや解答の構成をまとめるなど)

# 人事院面接対策

# 準備したこと

- ・就活の本やYouTubeで面接の流れやマナーをチェック
- ・Zoomを使って自撮り
- ・模擬面接(大学のキャリアセンターを利用したり、当日友達にお願い してやってもらったりした)

# アドバイス

奇をてらったことは聞かれなかったので、緊張することもあると思いますがなるべくいつも通り話せれば大丈夫だと思います!

# 【大卒】 経済区分の勉強法(京都大学経済学部)

専門記述 専門択一 基礎択一 政策論文 11月 予備校の授業 予備校の授業 1月 問題演習 問題演習 4月 過去問 過去問 5月 予備校の授業 予備校の授業



# リフレッシュ方法

- ・体を動かす
- ・友人と話す
- ・試験勉強のみするのではなく、他の 活動も少しは同時並行で続ける



予備校のメリット

- ・官庁訪問などの情報が手に入る
- ・いつ何をすれば良いかなどの勉強の指 針が分かる
- ・勉強のペースを確認、修正できるペースメーカーになる

予備校の授業・テキストに沿って対策しました。問題集をやりなが ら、何度もテキストを確認しなおすことで暗記も行いました。

## 専門択一

予備校の授業・テキストに沿って対策しました。問題集をやりながら、何度もテキストを確認しなおすことで頭に叩き込みました。

#### 専門記述

1次試験後に対策を本格的に始める予定だったので、予備校の授業を 視聴したのみです。

## 政策論文

予備校の授業・テキストに沿って対策しました。実際に答案を記述してみて、改善点を探しました。また、頻出テーマについての理解も深めました。

# 人事院面接対策

# 準備したこと

今回は官庁訪問の後に人事院面接があったので、基本的には官庁訪問で話した内容を整理するのみでした。面接カードは予備校の授業でのアドバイスを参考に準備しました。

# アドバイス

いわゆるかっちりした面接なので、そういった雰囲気の中でも自分 の話したいことが話せるように面接に慣れておくと良いと思います。

# 【大卒】 経済区分の勉強法(京都大学経済学部)

専門択一 専門記述 基礎択一 政策論文 11月 問題演習 問題演習 12月 1月 問題演習 問題演習 3月 4月 過去問 過去問 過去問 予備校のメリット

リフレッシュ方法

- ・友達と定期的に運動をする。自分はよく サッカーやアルティメットをした。
- ・京都だったので、近くの寺社や鴨川に行 って気分転換するのはよかった。とにか く外に出るというのはリフレッシュのた めの普遍的なよい手段だと思う。

- ・テキストが大変すばらしい。
- ・講義はオンラインで何度も受け直すことができた。
- ・勉強の方法、進め方の明確なヒントを与えてくれた (ただし自分は予備校の示す進め方はあまり気にせ ず、自分のペースで学習を進めていた)。それもあ り、試験勉強以外の他のこととの両立が独学よりも 容易であった。
- ・添削してもらえる。
- ・模試の受験機会が多い。

予備校の講義の受講と復習、問題演習をひたすら繰り返した。数的処理は特に早い段階から重点的にやっていたと思う。それと比べれば、文章理解はあまりやっていなかった。知識系は、予備校のテキストをパラパラめくり、直前期になってからしっかり暗記していったと思う。

## 専門択一

予備校の講義と復習、問題演習をひたすら繰り返した。配点比率通り、 経済理論を中心に進めていった。

#### 専門記述

予備校の講義・復習と、採点してもらえるシステムを一部利用しながら問題演習を行った。専門記述を勉強する時間は専門択一の勉強にもなるという意識で学習を進めた。

#### 政策論文

予備校の講義・復習と、採点してもらえるシステムを一部利用しながら問題演習を行った。また、政策論文のためだけというわけではなかったが日ごろから新聞に触れて社会の情報には敏感になっていた。それが本番に活かされたかどうかと言えば、活かされたような気がした。

# 人事院面接対策

# 準備したこと

面接カードに沿った質問項目の深掘りを普通にした。周囲に国家公務員を志す友人がいなかったこともあり、予備校の模擬面接はとても有益だった。そこでのフィードバックが志望動機等の深掘りや話し方などを洗練させるよいきっかけとなった。

# アドバイス

- ・友人、先生など誰でもいいから客観的な評価をもらうことは面接対策 において絶対だと思う。
- ・当日は長時間待たされる可能性があり、暇つぶしの本など持参した方 が無難。

# 【大卒】 政治・国際区分の勉強法(大阪大学法学部)

基礎択一 専門択一 専門記述 政策論文 10月 参考書通読・ 教科書通読 対策せず 計算系演習 2月 過去問 過去問 5月 問題演習 7,8月 リフレッシュ方法 独学向けのアドバイス

私は週2回ほどの飲食店のアルバイトを続けていましたが、アルバイトはかなりリフレッシュになったと思います。バイト先の店長や同僚と他愛のない話をして、勉強のことを忘れることが出来ました。他に軽い運動をすることも気分転換になります。

独学で大変なのは、モチベーションの維持ではないかと思います。私は1日ごとにノルマを決めて、それを淡々とこなすことでモチベーションの起伏を作らないようにしていました。加えて、1週間のうち1日は勉強をせずに漫画・テレビ・YouTubeに没

頭する日を作って息切れしないようにしていました。

参考書、問題集を買って何周も繰り返しました。最初は、高校の教 科書を読んでいましたが、アウトプットの機会がある問題演習の方が 効率もいいし勉強しやすいと思います。特に計算系は、早めに演習を 始めました。

## 専門択一

最初に大学の教科書を読んで、そのあとに問題集を5周くらい繰り返し解きました。問題集があまりない国際法を選択しましたが、国際法は教科書を5、6周ほど読んで対策しました。

### 専門記述

今年度はなかったので、対策の勉強はしませんでした。

#### 政策論文

参考書を買って実際に小論文を書いて練習していました。ただ、買った参考書は一般職・地方向けの本だったので総合職向けにはあまり役に立ちませんでした...。論理構成のトレーニングにはなったと思っています。

# 人事院面接対策

# 準備したこと

面接カードの各項目に関して、それぞれ5W1Hを書き出して深掘りされても答えに窮しないように準備しました。また、そもそもの土台として自己分析には力を入れていました。

# アドバイス

私は当日かなり緊張していましたが、ゆっくり大きな声で返事をするなど余裕ぶる振る舞いをして、形から気持ちに余裕を持たせるようにしていました。面接は心の余裕が大切だと思います。

# 【大卒】 政治・国際区分の勉強法

# (慶應義塾大学法学部政治学科)

専門択一 専門記述 基礎択一 政策論文 11月 問題演習 12月 暗記 2月 問題演習 3月 問題演習 4月 過去問 時事を確認 過去問

リフレッシュ方法

- ・どうしても勉強したくなくなったときは、 好きなことをする。(私は漫画や小説を読んでゴロゴロしていました)
- ・定期的に説明会に参加する。(勉強していない日の罪悪感を減らす&モチベーションをあげることができます!)
- ・眠くなったら一旦寝る。

予備校のメリット

私は12月末から予備校の通信講座を始めました。 良かった点は、

- ・記述などの添削をしてもらえたこと
- ・模試で自分のレベルを判断できたこと
- ・面接練習で、質問されそうなことや弱点について、自分では気が付かなかったアドバイスをも らえたこと

だと思います。

予備校は基礎択一なしのコースを選んだので、独学で勉強しました。知識系は苦手だったのでほとんど捨て、知能系の科目を毎日数問ずつ解くようにしていました。

## 専門択一

12月末から1月に、予備校のWeb講義を一気見して、テキストをざっと読みました。そのあとは、問題集を解き、間違えた問題についてテキストを確認する、という勉強を繰り返しました。大学で学んでいた科目を選択したので、勉強は楽だったと思います。

## 専門記述

2020年度は専門記述試験がありませんでしたが、その発表までは勉強していました。3月ごろからWeb講義を見て、記述を書き始めました。予備校に郵送して添削してもらい、模範答案を読んで、同じ問題も再度書き直しをするようにしていました。

#### 政策論文

4月ごろに参考書を読みはじめ、政策論文を書く時のコツを確認しました。そのあとは、2~4月にかけて受けた模試の政策論文試験問題を解き直し、書く練習を続けました。

# 人事院面接対策

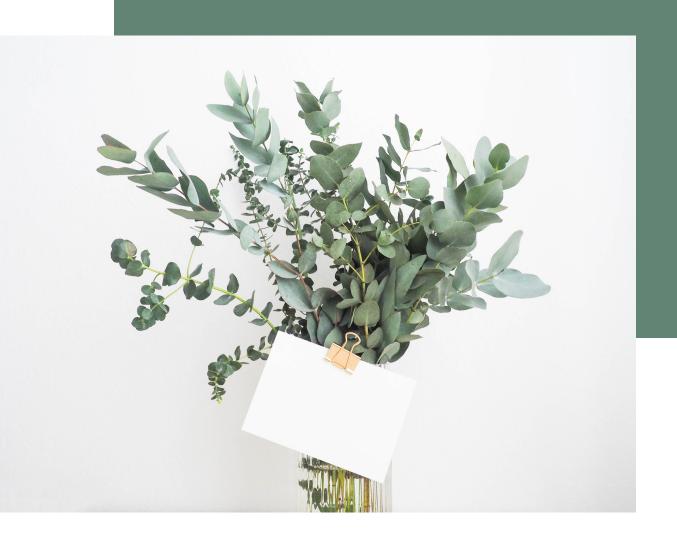
# 準備したこと

官庁訪問前に用意した自己分析ノートを読み返しました。また、予備校で面接練習をし、アドバイスをもらいました。例えば、人事院面接では3人の面接官がどの省庁の方か不明なので、特定の省庁に偏った意見は言わないこと、などです。

# アドバイス

当日は7人ずつのグループに分けられ、各グループ内で順番に面接しました。順番は到着順ではないので、早すぎる時間に行く必要はないと思います。6番や7番の人はそこそこ待つので、自分がリラックスできるものを何か持っていくと良いです!

# 第3章



# 官庁訪問対策



# プロフィール

·名前(イニシャル):A.A

·出身地:福島県

·最終学歴:東北大学生命科学研究科

・サークル:テニス(幽霊)

・好きなYoutuber:きまぐれクック

(かねこ)

# 国家公務員・環境省の志望理由

父が公務員として福島で働いていて、震災時に献身的に働く父を見てカッコ良さを感じ、公務員というものに興味を持ちました。そして幼少の頃より自然と親しむ機会が多く、大学でも自然界の生物、特に絶滅が危惧されている種を対象とする研究を行っているため、希少種保全と福島復興・再生に取り組んでいる環境省を意識するようになりました。その後、環境省でのインターンシップで様々なことを経験させていただいて、行政官としての専門分野への関わり方を知り、環境省に入省したいと強く思うようになりました。

# 学生時代に力を入れたこと

学生時代に最も力を入れたのは研究です。例えば、新しく開発された手法を私の研究で使えるようにするために、指導教員の先生にどれだけ有用で費用対効果が高いか、今後どれだけ使われていくことが予想されるか、この研究室に導入することでどんな効果が期待されるか、私の研究に適合性がどのくらいあるか等々を伝えて、実際にその手法を扱っている研究機関に行き、ご教授いただいて、その手法を研究室に導入しました。その後、私の研究だけでなく、研究室ではそこで作成したマニュアルを基に何度もその手法を用いて解析を行っていて、成果につながっています。

#### 訪問前の志望状況

訪問省庁  $oldsymbol{1}$ 日目 環境省  $oldsymbol{2}$ 日目 なし  $oldsymbol{3}$ 日目 なし

民間志望: なし

他の公務員志望: なし

#### 志望状況の理由、環境省に決めた理由

私は学部生の頃はもともと院進するつもりでしたが、単純に経済や法律の勉強がしたかったのと将来の選択肢を増やす意味で国家総合職試験を受けました。当時も福島出身で自然が好きだったこともあって、福島再生・復興と自然環境に関わっている環境省が第一志望でした。院生になってからは博士進学も視野に入っていましたが、博士に進むか環境省に入省するか判断するために、私の研究と関わりの強い希少種保全推進室での2週間のインターンに参加しました。そこで勤められている職員の方の専門性の高さに驚き、私も同じように専門的知識を学び、生かしつつ、行政官として様々な分野に関わっていきたいと考えました。そのため環境省を第一志望にして、仮に落ちたら博士課程に進むつもりでした。

# 評価されたと思うポイント

- ・様々な分野を学ぼうとする意欲
- ・福島や自然環境に対する熱意(自分で言うのもなんですが...)

## 環境省志望者へひとこと

(少数かもしれないが、)特に理系で事務系を目指している方へ。 環境省は関わっている分野が広範なので、興味の幅が広い人には最適だと思います。そして環境省のインターンや説明会、官庁訪問を通して、ジェネラリストとスペシャリストであることを両立できる場であると知りました。そのため理系の特性も持っていることは大きなアドバンテージになると思うので、まずはぜひインターンや説明会などのイベントに参加して視点の違いを楽しんでほしいです。



# プロフィール

·名前(イニシャル):T.A

·出身地:兵庫県

·最終学歴:東京大学経済学部

・ゼミ:ゲーム理論・マクロ経済学

・サークル:野球サークル

・好きなドラマ:SUITS、半沢直樹

# 国家公務員・環境省の志望理由

公務員として人々の暮らしを守ることを仕事にする父親の背中を見て育ってきたことから、将来自分自身も人々や企業を守り、より良いものにしていく立場として働きたいと考え国家公務員を志望しました。他省庁でも「国民の生活を守る」という目標は共通している中で、自分はどんな切り口から携わりたいか考えた時に、時代が変わっても失われない価値を持ち、これからさらにその重要性が増していく環境問題を解決に導く当事者になりたいと考え環境省を志望しました。

# 学生時代に力を入れたこと

ゼミ有志で現在も進めている労働市場の研究に力を入れています。テーマとして何を設定するかというところで紆余曲折があって半年ぐらいかかってしまいましたが、何度もミーティングを繰り返し、テーマ設定、先行研究の調査からデータ分析・そのまとめの作業までを経験する中で、仲間と共に働くことの楽しさの一端を知ることができました。最近になって中間目標としていた政策コンテストへの応募が終わったのですが、締め切りぎりぎりまで仲間と資料の作成に打ち込めたのはいい思い出です。

## 訪問前の志望状況

訪問省庁 1日目 環境省 2日目 金融庁 3日目 なし

民間志望: あり(金融、インフラ)

他の公務員志望:なし

#### 志望状況の理由、環境省に決めた理由

3年生の夏から民間企業と経済系の省庁を中心に説明会やインターンを回り、自分の強みが生かせそうかという点とそれらの組織が目指す目標、社員・職員の方々や周りの学生の雰囲気などから本選考に臨む企業・省庁を絞りました。

官庁訪問では、訪問したどちらの省庁も魅力的に映りましたが、「これから大変なこともある中で、自分は何を守っていきたいのか」という自分の中での問いに対し、環境行政に携わっていくことへの納得感が変わることはなかったことが環境省への入省を決意する決め手だったと思います。

# 評価されたと思うポイント

大学で学んできた経済学の知識やバイト・サークルでの経験を環境省における政策と結びつけながら話せた点だと思います。また経済に直接関係のない分野でも、訪問中に聞いた話をまとめて自分の考えに取り入れ、次に生かしていく姿勢が評価されたのではないかと思います。

# 環境省志望者へひとこと

説明会やOB訪問等を通じて様々な職員の方とお会いして話す機会があると思いますが、その時の内容や自分が思ったことをまとめて言語化しておくと官庁訪問やその先振り返りたい時に役に立つと思います。試験対策から内定まで長いプロセスですが頑張ってください!



# プロフィール

·名前(イニシャル):T.U

・出身地:東京

· 最終学歴:東京大学公共政策大学院

・ゼミ:政治学とか労働法とか

・サークル:国際学生会議、東京大学 バックパッカーサークルCONOZCO

・好きなダイビングポイント:沖山礁

# 国家公務員・環境省の志望理由

環境問題に興味を持ったのは、4歳の時にウミガメがポリ袋を食べて死んでいるというニュースを見て、子どもながらに許せなかったことがきっかけです。「僕が大好きなウミガメさんを助ける!」と母親に言ったそうです笑。近年では環境問題に関われる職種も増えてきている中で環境省を選んだ理由は、国の進む道を指し示すことができるというダイナミックさの他に、環境問題の被害を被っている人々と対話をする現場感も重視しているからです。「倫理」「正義」ということを考えることができるという点は非常に魅力的でした。

# 学生時代に力を入れたこと

色々と手を出すことを頑張ったと思います。学部横断型プログラムでパラオの研究をしたり2回サマースクールに行ったり、国際学生会議というサークルでは64年の歴史で初めて政策提言を行ったり、趣味では写真や旅行・ダイビングにも取り組んだり…それらの活動を振り返っても、結局「環境」という軸を中心に動いていたなと感じています。

# 訪問前の志望状況

訪問省庁 1日目 環境省 2日目 なし 3日目 なし

民間志望: あり (コンサル)

他の公務員志望:なし

# 志望状況の理由、環境省に決めた理由

周りが働き出し、就留だけは避けたいという思いから早期選考が実施され自分の興味とも近かったコンサルを1社志望しました。結果11月には内定を頂戴できたので、心の余裕は相当ありました(試験が延期になり、もう公務員じゃなくてよくね!?って思ったこともあったけど…笑)

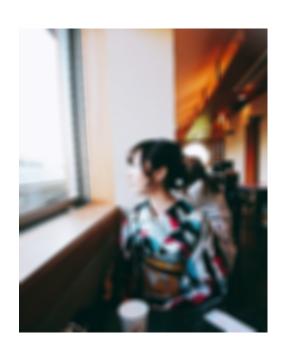
環境省に決めた理由は事前面談会に参加して職員の方とお話をさせてもらい、オンラインではありましたが改めて一番ビビッときたことです。配属等を考えても、環境問題に様々な角度から取り組むことができるという点も大きかったです。

# 評価されたと思うポイント

環境問題一筋の熱意、及び環境問題に対する自らの意見を持っていることは評価して頂いたと思います。それに加えて、難しい調整役を担うことが求められる以上、行政官として環境一辺倒にならずにバランス感覚を持っているということも伝えられたと思います。

# 環境省志望者へひとこと

まだ私は入省していませんが、環境省はこの国の、そして世界の未来を本気で語れるアツい人材を求めているように思います。職員の方々と話して、本気で考えて、等身大の自分で本気でぶつかってみると、きっと道は拓けると思います!



# プロフィール

·名前(イニシャル):E.K

·出身地:大阪府

· 最終学歴:京都大学経済学部

・ゼミ:環境経済学 ・サークル:ダンス

・好きな歌手:back number

# 国家公務員・環境省の志望理由

私が初めて当事者意識を持った社会課題が気候変動だったこともあり、環境問題に携わる仕事がしたいと考えていました。その中で、人々が無意識のうちに行動を変えるような仕組みを整えないと環境問題の解決は難しいと考え、政策や制度などの仕組みを作ることができる国家公務員、そして環境省を目指すようになりました。

# 学生時代に力を入れたこと

大学2年時から、気候変動問題の解決を目指す若者の団体での活動を行ってきました。そこでは環境政策に関わる方との意見交換会や、COP(気候変動に関する国際会議)への傍聴参加を行いました。

また、大学では環境経済学のゼミに参加し、共同論文を執筆しました。 その他、ドイツへの5か月間の留学や、環境系の企業へのインターンも行っていました。

訪問省庁 1日目 環境省 2日目 総務省 3日目 なし

民間志望: なし

他の公務員志望: なし

#### 志望状況の理由、環境省に決めた理由

前ページに記述した志望動機から、環境省が第一志望だったので1日目に 訪問しました。また、持続可能なまちづくりにも関心があったため、自治体 により深く関わることができる総務省を2日目に訪問しました。

国全体に関わる政策や制度などの仕組みづくりに携わりたいという思いから、民間や他の公務員は志望しませんでした。

最終的に環境省に決めたのは、環境省が長期的な視点を持ち、環境問題を 起点に関連する他の課題にも積極的に取り組んでいこうとしていると感じた からです。

#### 評価されたと思うポイント

環境省が第一志望で、それ以外考えられないという熱い思いが伝わったのではないかと思います。

#### 環境省志望者へひとこと

官庁訪問はいわゆる面接というようなものではなく、職員さんが話しやすい雰囲気を作ってくださるので、緊張しすぎず、自分を飾ろうとせず、ありのままを見てもらうようにすると良いと思います。自分のことを知ってもらう場でもありつつ、自身も環境省の業務について理解を深め、本当に環境省で働きたいかどうかを見極める場でもあるので、自分だけが見極められていると思わず、リラックスして臨んでみてください。



- ·名前(イニシャル):Y.K
- ·出身地:東京都
- ·最終学歷:京都大学大学院公共政策教育部
- ・ゼミ:大学院では特になし。 学部は計量経済学系のゼミ
- ・サークル:ボランティアサークル、 震災復興研究会
- ・好きなテニス選手:ラファエル・ナダル (利き腕は右だがテニスの際は左利きとい う所が自分と同じで好感が持てるから。)

## 国家公務員・環境省の志望理由

「公共性」という就活軸にベストマッチするから。この軸で企業を探したが、 やっぱり行政官を超える働き方は見つけられず。(国家公務員の志望動機)

環境問題に関心があるが、その中で環境省を志望した理由は2つある。1つは、広く環境分野に関わることができる仕事がしたいと考えた時に、そのような仕事に従事できる場所として環境省が最適であると思い至ったからである。もう1つは、環境問題を切り口としながらも社会・経済と調和を図りつつ、それらの同時解決を目指すことができる唯一の職場であると考えたから。(環境省の志望動機)

## 学生時代に力を入れたこと

ボランティアサークルで活動していた。偉人の如く、利益を要求せず、純粋に他者のために生きる姿勢に憧れを抱き、そのような生き様の体現のための身近な手段としてボランティアが適していると考えたからである。色々やったが、中でも学生自治会が運営する大学内のサークル棟の敷地内の大量の廃棄物を一掃するプロジェクトは目に見える実績があり楽しかった。明らかな景観悪化の原因になっていたので、有意義な活動だと自負できたことも達成感に一役買った。

訪問省庁 1日目 環境省 2日目 なし 3日目 なし

民間志望: あり(主にシンクタンク、リサーチ、データサイエンティスト)

他の公務員志望:なし

#### 志望状況の理由、環境省に決めた理由

学部時既に国家公務員志望で、官庁訪問をしていた。当時3日目に回った 環境省において、これからの業務拡大のポテンシャルにワクワクしたこと、 雰囲気・人柄が感覚的にマッチしたことが、環境省を本気で目指すきっかけ になった。よって大学院時は、環境省が第一志望という前提で、セーフティ ネットのための民間就活を行った。ただし公務員になりたいわけではなかっ たので、環境省でなければ民間でよいという意識だった。

民間については、環境エネルギーに関われるシンクタンク、又は統計学・計量経済学が活かされる業界を中心に回った。エントリーした企業数は比較的少なかった。

#### 評価されたと思うポイント

- ・学部時代の2年前と比べて、職員の話に積極的に質問や自身の考えをぶつけたと思う。その姿勢は買われた気がした。
- ・大学院の授業や独学で環境に関する知識や自身の考えを1年間かけて洗練させていった。それは他訪問者との差別化要因になったと思われる。

#### 環境省志望者へひとこと

環境省を第一志望にする人は少ないのかなと思いますが、もしそうであれば、広く環境という分野にこだわる明確な理由を常に考え続けるといいと思います。正直それだけで環境省を志望するまっとうな理由となります。環境全般を所掌する日本で唯一無二の組織だからです(たぶん)。また、環境分野への関わり方は行政官のみならず、シンクタンクやその他民間、環境NGOなど様々にあると思います。まずは自分がどういう役割を担いたいのかを思案するのがよいでしょう。



·名前(イニシャル):R.S

·出身地:埼玉県

·最終学歴:一橋大学·国際公共政策教育部

・ゼミ:国際環境法

・サークル:滑空機制作、テニス

好きな小説:アーサー・C・クラーク

『太陽系最後の日』

## 国家公務員・環境省の志望理由

私は、業務の公共性の高さ、専攻との関連性の二点を満たす業種を志望していました。

国家公務員は、公共性の高さという点では申し分ありませんでした。特に環境省は、公平な政策を追求できる点、日本に限らず世界にも影響を与え広く社会に貢献できる点、専攻と大いに関係する点が魅力的であったため志望しました。

また中央省庁→民間に比べ、民間→中央省庁は難しいというのも、国家公 務員を志望した理由です。

## 学生時代に力を入れたこと

滑空機制作団体の活動に力を入れました。団体では、代表として運営業務を行っていたので、そこから得た調整能力や、合意形成能力を、環境省でも活かせることをアピールしました。また、塾講師や家庭教師として働いていた経験から、当事者にあった説明を行う工夫についても話しました。学生時代の経験は、その内容ではなく、そこから得たものをいかに一般化して伝えるかが重要であると思います。

訪問省庁  $oldsymbol{1}$ 日目 環境省  $oldsymbol{2}$ 日目  $oldsymbol{2}$ 日目 なし

民間志望: あり(シンクタンク・コンサルティング業界、政府系金融機関)

他の公務員志望: あり (都道府県庁)

志望状況の理由、環境省に決めた理由

民間企業については、社会課題の解決を専門的な知見をもってできる業界を志望していました。WLBや給与は魅力的でしたが、政策への関与の度合いを考えて国家公務員を選択しました。もっとも、民間企業の就活を通して視野が大きく広がったので、可能な限り、民間企業の選考にも参加することを勧めます。農林水産省は、環境問題及び専攻テーマと関連が深い省であったため訪問しました。農林水産省を含む他省庁には豊富な政策資源等それぞれの強みがありますが、比較的新しい省庁である環境省の身軽さと業界とのしがらみのなさにこそ個人的に魅力を感じ、環境省を選択しました。都道府県庁は、地域の特性を踏まえ住民に近い目線で環境政策を打ち出せると考え志望しました。

#### 評価されたと思うポイント

正確にはわかりませんが、環境に限らず広く関心を持っていること、質問に対してその場で考え答える力と、マネジメント能力について評価されたのだと思います。ただし、環境省は多様な人材を求めているので、最低限の対人折衝能力を示せれば、個人の強みをアピールすることがより重要であると感じました。

#### 環境省志望者へひとこと

国家公務員には、政策実現のために現実的な行動が求められます。しかし、 環境省には科学的根拠に基づき、理想を追求しうる風土があります。理想を持 って社会を変えたいと考える方々にとって、環境省は極めて魅力的な職場であ ると思いますので、ぜひ選択肢の一つとして検討してみてください。



·名前(イニシャル):Y.T

·出身地:長野県

·最終学歴:大阪大学法学部

・ゼミ:国際関係学ゼミ

・サークル:体育会空手道部

・好きなフィリピン料理:アドボ

## 国家公務員・環境省の志望理由

大学2年の春休みにフィリピンへ海外ボランティアに行き、そこで衛生・インフラ・ゴミ処理などで日本と比べると不十分な生活環境を目の当たりにし、その現状に問題意識を抱きました。その経験から、将来生活環境の改善・維持に関わる仕事につきたいと考えるようになりました。その状況を改善する仕事は、公共サービスとして行政が中心になって担います。環境省の仕事は、温暖化対策、廃棄物対策、公害対策のように環境を守ることにつながっています。行政官として生活環境の向上に携われる環境省は、私の考えと一致しており、環境省を志すことになりました。

## 学生時代に力を入れたこと

学生時代は、空手道部に所属していたので部活動に力を入れていました。特に渉外係を任された時の経験と、大学1年生で骨折の怪我を負った後に工夫して部活を続けたことが部活動に関して力を入れた経験です。他には、大学のゼミにも力を入れていました。大学3年生では、論文を執筆しましたが、その時に論文チームをまとめる役を担いました。また、短期間の論文の執筆期間でどのように論理的な構成にするか、考察を重ねたことも力を入れたことの一つです。

訪問省庁 1 日目 環境省 2 日目 国交省 3 日目 農水省

民間志望: あり(団体系)

他の公務員志望: あり (地方上級)

#### 志望状況の理由、環境省に決めた理由

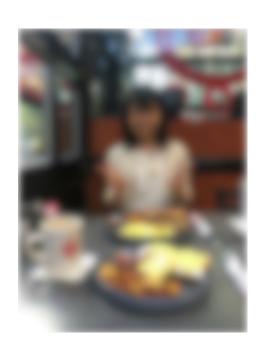
民間に関しては、大学の先輩の勧めもあり、一つの業界に絞りすぎるのではなく、広い視野を持って職業を選ぼうと考え応募しました。結果的に、なぜ環境省を目指すのか考えが明確になり、さらに面接慣れもできたので民間を受けてよかったと考えています。国土交通省と地方上級に関しては、私が携わりたいと考えていた生活環境の改善に、行政官として少なからず関わることが出来るので志望していました。農林水産省は、農業分野に関心があったので応募しました。

#### 評価されたと思うポイント

環境問題の解決のために働きたいという熱意が一番評価されたと思います。 それに加えて、災害ゴミの処理といった国内の現場レベルの環境省の仕事にも 強い関心を抱いていたため、環境省のどの仕事を任されても熱心に働いてくれ ると捉えて下さったのではないかと思います。

#### 環境省志望者へひとこと

環境省は、環境問題解決という大きな目標の下に、多様な人材がはたらいている組織です。環境保護に関わりたいと考えている方にとっては、その目標達成のために同じ意志を持つ環境省のメンバーと働くことが出来る魅力的な省庁です。ぜひ一緒に環境省で活躍しましょう!



・名前(イニシャル)**:**H.F

·出身地:東京都

· 最終学歴:慶應義塾大学法学部政治学科

・ゼミ:日本政治行政史

サークル:なし好きなもの:本

## 国家公務員・環境省の志望理由

現代社会には、自分ひとりの力では解決できない問題によって理不尽な困難を抱えている方々がいると思います。そのような問題を解決し、人々の幸せを支えるためには、社会の根本となる制度や法律を整えることが必要不可欠であると考え、国家公務員を志望しました。

その中でも、環境省を志望した理由は、環境問題が近年ますます深刻化し、現在から将来にわたって、人々の生活に大きな被害をもたらしていると考えたからです。また、環境省では、環境問題への対処という軸を持ちつつも幅広い視点から、同時に社会問題の解決にも貢献できると考えました。

## 学生時代に力を入れたこと

大学2年生の夏、イギリスへの2週間の短期留学をしました。毎日チーム戦でディベートを行い、最初は失敗続きでしたが、チームメイトからの助言や毎回の反省を通して、改善することができました。この経験から、議論する力や表現力などを身につけることができたと思います。また、大学3年生の夏には、アメリカに短期留学し、日米文化比較をテーマにチームでプレゼンテーションを行いました。イギリスでの経験を生かし、聴き手に納得してもらえるようなプレゼンをつくることができました。

訪問省庁 1 日目 内閣府 2 日目 環境省 3 日目 文科省

民間志望: なし

他の公務員志望: あり (国会職員)

#### 志望状況の理由、環境省に決めた理由

私は性格的に興味関心が幅広いので(業務分野についての明確な軸がなかったので)、一分野に縛られず、他省庁の取りまとめ役も担う内閣府を1日目にしました。環境省も分野が広いと説明会で聞いていたので、2日目に参加しました。説明会の時から、職員の方の人柄や職場の雰囲気的に、私には環境省のほうが合っていそうだなぁとは思っていたので、1・2日目は志望度合いがほぼ同じでした。

最終的に環境省を選ばせていただいたのは、軸を持った上で幅広い問題に対処できること、環境関連の専門知識やバックグラウンドがなくても、「あなたは環境省に合っていると思う」と職員の方々に言っていただいたことが理由だと思います。

#### 評価されたと思うポイント

積極的にコミュニケーションをとれたことだと思います。知識がなく知らないことが多かったので、疑問に思ったことはたくさん質問し、拙くても自分なりの意見を積極的に発言していました。また、オンラインだったり、マスクをつけたりしていたので、リアクションが伝わりやすいように心がけていました。

#### 環境省志望者へひとこと

先輩方が、官庁訪問は楽しめれば大丈夫!と言っていたので、頑張って楽しもう!と思って臨みました。結局緊張してそれどころじゃなかったですが、終わってみれば、楽しかったと思います。好奇心を持って楽しく会話できれば、そこが自分に合う職場なのかな、と思うので、みなさんも楽しんでください!



- ·名前(イニシャル):T.M
- ·出身地:神奈川県横浜市
- ·最終学歴:一橋大学国際公共政策大学院
- ・ゼミ:学部 行政法

院 公共政策(行政学)

・サークル:学部 軟式野球部

院 政策提言型の団体

・好きなスポーツ:野球、マラソン 野球は15年間やってきました。フルマラ ソンは去年から出場していて、2月には無 事開催されれば冬に湘南国際マラソンに 出ます!

## 国家公務員・環境省の志望理由

国家公務員に最初に興味を持ったのは、高校のキャリア講演で外務省の人の話を聞いた時です。国の政策に携わる仕事があることを知り、大学以降に説明会等で理解を深めていきました。その過程で、国家公務員として日本を良くしていきたいと思い、課題となっている一つ一つの社会的リスクをなくしていきながら多くの人が幸せを実感できる社会にしていきたいと考えるようになりました。

気候変動や廃棄物の問題は地球規模の大きなリスクだと捉え、そのような問題 を行政の立場から解決していきたいと思い環境省を志望するようになりました。

## 学生時代に力を入れたこと

学部時代は、軟式野球部に所属していて、小学校から続けていた野球を最後までやり切りました。所属としては法学部で学んでいたので、基本的な法律科目を履修しゼミでは行政法を専攻していました。なるべく色々な人と関わりながら、何かを成し遂げる経験を大事にして過ごしていたように思います。

大学院では、研究と並行しながら日中学生会議への参加、政策提言団体であるジュニア・アカデメイアに所属しながら議論・発表にも力を注いでいました。自分が興味を持ったことには、積極的に挑戦する行動力が以前にも増して強くなったと感じています。これらを通じて、多様な考えに触れながら自分の意見が磨かれていく経験ができました。

訪問省庁 1日目 厚労省 2日目 環境省 3日目 農水省

民間志望: あり(政府系機関、独立行政法人、金融、メーカー)

他の公務員志望: なし (都庁などは申し込みをしていましたが受験はしていません)

#### 志望状況の理由、環境省に決めた理由

元々は厚労省志望で、社会保障に携わりたいという気持ちがありました。その根幹の部分は、今後の日本を考えた時に社会保障は大きな課題であり、原体験の部分からも関心の高い厚労行政に注力することができるため興味を持っていました。そこから自分の考えが変わった理由は、職員の方々からの「真に弱者に寄り添うことができるのは環境省だ。」という言葉に共感したからです。人間が地球上で生きられている根底の部分の自然環境を守っていく使命感に心を動かされました。説明会では色々な省庁、民間企業を見ていましたが、職員の人と話して雰囲気や価値観が合うかどうかは重要な要素だと思います。私自身の就活を振り返っても、合わないと感じるところから良い評価を受けることはなかったので、そこを見つけることが大事だと思います。

#### 評価されたと思うポイント

柔軟な対応力や柔らかい人柄を評価しているということは、伝えられていました。この点は、政策を実現していく際にも多方面へ調整していく時に活かすことができるだろうと、自分でもアピールをしていました。過去の経験を踏まえた自身の強みを論理的に伝えることができれば、その良さを引き出してくれる官庁訪問だったと思います。話をする中で自分の弱みも見抜かれていたので、ありのままの姿で挑むしかないと感じました。

#### 環境省志望者へひとこと

就職活動は、進路が決まるまで不安な状況が続くと思います。自分も周りの情報から不安にさせられてしまう時期がありました。私は、そんな中でもノートなどに自分の思ったことを書き留めて考えを整理するようにしていました。最後に、学部も含めて試験に複数回落ちていたので、試験落ちして迷っている方々も諦めずに根気強く頑張ってほしいです。応援しています!

## 官庁訪問の一日の流れ(例)

9:00~ 入口面接:訪問カード(ES)の内容に沿った質問 20分 10:30~ 原課面接(係長級):福島事務所の業務内容について 60分 13:30~ 人事面接:関心のある分野、他省庁の志望理由、など 20分 14:30~ 人事面接: 志望理由、趣味や資格についての詳細、など 30分 15:30~ 原課面接(係長級):キャリアパス全体、環境省の業務全般について 90分 17:30~ 原課面接(課長級):キャリアパス全体、総合職としての心構えについて 30分 19:30~ 原課面接(課長補佐級):環境省の政策についての議論 120分 21:50~ 出口面接:一日の感想、評価 10分

#### 面接の種類

- ・入口面接:一日の最初に行う面接です。訪問カードの内容から簡単な質問をされたり、 訪問中に話を聞きたい分野などについて聞かれたりします。
- ・人事面接:採用担当の方と行う、一般的な面接らしい面接です。
- ・原課面接:業務内容について詳しくお話を伺う場です。疑問に思ったことを質問した り、自分の考えを述べたりすることが求められます。
- ・出口面接:一日の最後に行う面接です。特に印象に残った話や志望度の変化を聞かれたり、評価を告げられたりします。

#### 準備したこと

- ・説明会・OB訪問に参加して雰囲気を掴む、説明会などで聞いたことをまとめる
- ・白書をざっと読み、関心のある分野・政策を把握する
- ・ESを友人と添削しあう、友人や教授と想定問答をする
- ・Eco検定の教科書や少人数説明会で職員の方から聞いたオススメの本を読む
- ・子供向け白書を読んで、現状の環境問題を一通り把握し、自分なりの政策を考える
- ・ニュース記事を読むなどして、関心分野以外も質問などができるようにする
- ・楽しむ!!

#### 入口面接

- ・ESの深堀り、志望理由
- ・興味関心のある分野について、課題と 思い浮かぶ政策
- ・どんなキャリアパスを歩みたいか
- ・民間就活の状況
- ・他の省庁はどうだったか、他省庁の 志望度合い
- ・先週(第1クール)を踏まえて気持ち がどう変化したか
- ・ (インターンに参加していたことも あり) 最近の調子どう?元気だった?

#### 人事面接

- ・志望動機、学生時代に力を入れた経験
- ・環境問題に興味を持った経緯
- ・環境省のイメージ
- ・周りですごいなと思う人はどんな人か
- ・自分の強みは何だと思うか
- ・どんな本が印象に残っているか
- ・専攻について、専攻をどう活用したいのか
- ・環境省に入省したら何がしたいか
- ・興味関心のない分野に配属されても大丈夫か
- ・大学院進学の理由、博士課程に進まないのか
- ・利害調整に重要なことはなにか

#### 原課面接

- ・こちらから質問をする場合が多かったので、質問→返答→それに対しての自分の考え、 の流れ
- ・(職員の方が経験されてきた状況下で)自分ならどのような施策を打ち出すか
- ・説明してもらった業務内容に関して思うこと
- ・ESをベースにした質問も結構ありました(ゼミ論文、趣味、2050年はどんな未来か等々)
- ・興味のある政策分野とその問題意識について
- ・大学時代に行っていたこと、志望理由、なぜ環境問題に興味を持ったのか
- ・国際分野に興味はあるか
- ・行政官としての利害調整の方法とそのイメージについて
- ・気候変動の影響を受けやすいのはどんな人達だと思うか
- ・コロナについてどう見てるか
- ・リスクコミュニケーションについて、どのように行うべきか
- ・環境省は生活を守る役割と、生活を向上させる役割のどちらが大きいと思うか
- ・なぜEUは環境政策に熱心だと思うか

#### 出口面接

- ・今日会った職員とどんな話をしたか、どんなことが印象に残っているか
- ・原課の振り返りを必ず聞かれました。原課では印象に残った文言をメモしておきま しょう。

# 第 4 章



## 座談会

## 座談会 ~オンラインでの面接について~

#### 人物紹介

H.F 慶応義塾大学 環境省訪問日:2日目 民間併願:無

R.S 一橋大学大学院 環境省訪問日:1日目 民間併願:有 T.A 東京大学 環境省訪問日:1日目 民間併願:有

T.M 一橋大学大学院 環境省訪問日:2日目 民間併願:有

#### ~オンライン面接のメリット~

H.F:まず、オンライン面接のメリットについて、お話ししたいと思います!

R.S:メリットは、お金がかからなかったこと! 地方の人は特にだと思うけど。

T.A:あと、時間も節約できたよね。朝の時間がゆっくりできたのは良かった。

T.M:たしかに。地方に限らず、お金と時間は多かれ少なかれ節約できたよね。

H.F:服装も楽だったなー。上だけワイシャツで下適当だったよ。

T.M: 服装もそうだし、リラックスしてできたよね。

H.F: そうなんだ。私は結局緊張してたなー。

T.M:いつ面接が来るか分からなかったからね。緊張する人はすると思う。

T.A:たしかに。面接ってことには変わりないしね。

H.F: うん。みんな面接の空き時間は何してたの?

T.A:ゲームしてた。

T.M:寝てた。

H.F:みんなリラックスしてるねー。笑 あと何か良かったことある?

R.S:良かったことって言うか、最初他人の家でやってたよ。

H.F: え! なんで?

R.S:自分の部屋が汚かったから。親戚の家に行ってやった。

T.M:なるほどね。環境を整えておくっていうのも大事だよね。

T.A:あと良かったことは、職員の方もオンラインだから、職場問わず話を聞けたことだよね。 他省庁でだけど、今海外にいらっしゃる方のお話を聞くこともできたよ。

H.F:そうだね! 環境省でも、私は福島事務所の方のお話を伺ったよ。

R.S:原子力規制庁の方のお話が聞けたのもオンラインだったからかな。あと、資料をPCの画面上に表示してもらえたのは見やすくてよかったな。

H.F:うん。対面だと資料は紙でもらったなー。

T.M:オンラインで資料送ってもらったのもあるよね。

H.F:ある! 政策について議論した時のでしょ。1ターム目、出口面接の前にやった面接のだよね。

R.S: そんなのあった?

H.F:1日目の人(T.A、R.S)と2日目の人(T.M、H.F)で面接の内容がちょっと違うのかもね。

T.M:でも資料をオンラインで送ってもらえたのは良かったよね。

T.A:ペーパーレスだね。

#### ~対面とオンラインの違い~

H.F:T.Mくんと私は2ターム目の2日目は対面で参加したけど、対面とオンラインとの違いってなんだろう。

T.M:メリット・デメリット両方の意味で、オンラインは対面より情報が入ってこないよね。

R.S:他の人は偉い人に会ってるけど、自分は会ってない、みたいな情報ね。

T.A: そういうの不安になるよね。

- T.M:間違った情報で変に不安を感じなくてよかったけど、情報が無かったら無いでちょっと不安だった。
- H.F:そうだね。あと、対面のほうが良かったと思ったのは、他の志望者と仲良くなれることかな。 他省庁での経験だけど、2ターム目対面で(感染症対策でアクリル板を挟んでだけど)一緒に お昼食べたりお話したりして、結構打ち解ける時間があったよ。
- R.S:そうなんだ。

#### ~オンライン面接で困ったこと~

- H.F:じゃあ次、困ったことについて、話したいと思います。何か失敗したなーってことはある?
- T.A: オンライン上で入る会議室を間違えたことあったよ。
- T.M:ああ、それ要注意だね。
- H.F:面接の前にURLがメールで送られてくるけど、「開始時間」以外はメールの文面って基本同じだから、見分けがつかないよね。
- T.A:うん。それで、前の回で使ったURLで入っちゃって、名前を言ったら、違いますね、ってなった。
- H.F:他省庁では、ミスが起こらないように、面接が終わったらすぐに、その面接の招待メールは 削除してくださいって言われたよ。
- T.A:削除しておけば間違えることないね。
- R.S:やっちゃったな、と思ったのは、民間の面接のときなんだけど、親戚が入ってきちゃったことかな。
- T.M:面接中にほかの人が部屋に入ってきちゃったってこと?
- R.S:そうそう。面接やってる後ろを通っちゃったから、「すみません」って職員の方に言って、 そのまま何事もなく会話に戻ったけど。
- T.M:似たようなことで言うと、固定電話が鳴ったことはあったな。
- T.A: あと宅配が来た。「大丈夫ですか」って聞かれて、「大丈夫です」って答えた。
- T.M: それは仕方ないよね。
- H.F:私は逆に鳴らなくて困ったことがあった。面接の間スマホをサイレントモードにしてたんだけど、面接のあと解除するのを忘れてて。面接の招待メールにも電話にも危うく気が付かないところだった。
- T.M:サイレントモードは解除するのを忘れないようにしないとだね。
- R.S:あと困ったのは設備じゃない?
- T.A:接続が悪いとかね。
- H.F:接続悪いのってどうしたらいいの?
- T.M:場所を変えたよ。自分の部屋が接続悪かったから、リビングでやってた。家族には、ごめんいま入らないで!って言って。
- H.F:なるほどね。私も家族がWi-Fi使うと接続が悪くなってたから、今日はWi-Fi使わないで!って言ってた。でも事前面談会前に環境省が接続チェック会を設けてくれてたよね。
- T.M:他省庁の接続会に参加したから大丈夫だろうなって思ってたけど、接続会は省庁ごとに参加したほうがいいと思う。
- H.F:省庁によって使うアプリが違ったもんね。
- R.S:機材の面で言うと、官庁訪問中に外付けのカメラ買ったよ。だから機材をそろえるのにもお金がかかるかもしれないね。あと、その時はテレワーク用品が売れているときで、店頭にWebEx対応商品が少なくて。値段が高いものしか置いてなかったから、安いのを買ってみたら、WebExでは使えなかった...。
- T.A: 今回はそういう時期だったからね。前もって用意しておくと良いかも。
- H.F:前準備ってことで言うと、オンラインでのコミュニケーション自体に慣れておくと精神的に 余裕が出るよね。
- T.M:そうだね。民間でオンライン面接をやってから省庁の事前面談会に参加したから、民間でやって慣れておいて良かったと思ったな。

#### 人物紹介

T.U 東京大学大学院 環境省訪問日:1日目 説明会参加回数:0回

Y.K 京都大学大学院 環境省訪問日:1日目 説明会参加回数:10回

#### ~サマーインターン参加の理由~

- T.U: 夏休みの1、2週間を使ってサマーインターンをしたと思うんだけど、Y.Kはなんでサマーインターンに参加しようと思ったの?
- Y.K:大学で募集していたのをたまたま見つけた。既に前年の春の時点で環境省が第一志望だったこともあり、環境省で働くイメージを早めに明確にしたかった。環境省を第一志望にしている者としては、2週間かけて現場で就業体験ができる機会は魅力的だった。
- T.U:自分も同じ感じなんだけど、コンサル・シンクタンクも就職先として考えている中で、インターンを通じて将来のキャリアについてイメージを膨らませたかったのが一番大きかったかな。2週間ということで、実際にラインに入れてもらえてオフィスの中で就業体験をさせてもらえたのも貴重だった!

公務員の働き方についてはいろいろ聞かされているけど実際に職員の方が近くにいて思うこと もたくさんあったよね。笑 自分も環境省が第一志望としてある程度固まっていたから、そうい う人にはインターンってめちゃいい経験になるよね。

#### ~インターンの内容~

- T.U:ちなみにインターンで配属された部局はどこだったんだっけ?
- Y.K: 自分は地球環境局総務課の低炭素社会推進室(現在の名前は脱炭素社会)に配属されたよ。というか、自分からその名前を志望願書に書いたんだよね。笑 たまたま大学で開催された環境系のイベントにその室長が参加されていて、その時に名前を知ったっていう経緯があってね。

初日に2週間後に発表するテーマをもらって、それに向けて2週間準備しながら最終日に部署の職員さんたちの前で発表したな。自分専用の机をもらって、そこで作業に取り組んだ。けっこうな頻度で、職員さんとのお食事だったり、原課面接と同じような形で説明を聞いたり、またヒアリングなどの用事で外出する職員さんに付いて行くこともあった。発表準備を進めながら、色々と環境省について知る機会を与えてもらったな。

- T.U:なるほど、俺も同じ感じ! ちなみにテーマはどういうことだったの?
- Y.K:そうだね、テーマは漠然としてて、「脱炭素社会の移行のために国民の行動変容を起こしていくにあたって、どんな方策が考えられるか」というような内容だったよ。広いテーマをどの切り口で深めるかを考えないといけないから、けっこう悩んだな。当然担当の職員さんと相談しながら進めたけどね。T.Uくんはどう?
- T.U:テーマ、漠然としがちよね。笑 僕がもらったテーマも「中小企業にSBTを普及させるために、 どのような施策をとるべきか」だったから、1日目から頭抱えたわ。笑

自分がいた部署は地球環境局の地球温暖化対策課でした! 僕の場合は部署まではわからなかったので、地球環境局志望として要望書を提出したな。

スケジュールは僕も3段構成で、お題に沿った発表内容の資料を準備しつつ、いろいろな講演会だったり企業との集まりだったりに参加させてもらって、さらに職員の方から普段の業務について原課面接みたいな感じで説明を受けてたな。

僕の場合は非常に特殊で、政務交代で小泉大臣が任命された時だったんだよね。だからものすごく環境省内がドタバタしてて、見ていて面白かったと言うのは語弊があるけど、貴重な経験をさせてもらったなと思っています。残り10日しかいないのに「頑張ってね」って小泉大臣から握手してもらったり、職員の方となぜか大臣レクに行ったり、本当にインターンにここまでしてくれるの?って思うくらいだった。笑

Y.K:小泉大臣と2回も会ったってこと? すごいな。笑 タイミングよすぎるね。

T.U:いやそれね、美味しいところ全部持っていった感じだわ。笑

#### ~インターンをどう活かしたか~

Y.K:2週間のインターンは結果的にどんな風に活かされたとかあるかな?

T.U:大きく分けると職員の方に名前と顔を知ってもらえることと、原課面接の練習になる、の 2つかな~。

人事担当の職員さんたちにはもちろん知ってもらえてたし、事前面談会の最初にお話させてもらった方がインターンの時に話したことのある職員さんだったから相当緊張が解れてリラックスして受けられたと思う。笑

あとインターンの時に色々な職員の方に仕事内容を聞いてたけど、それがほぼ原課面接と同じだったから官庁訪問の時に変に緊張することはなかったかな。インターンの時と同じく積極的に質問をしたり、それに対して自分の考えを述べたりするように意識していたら官庁訪問でもそれなりに評価していただいたと思っています。

- Y.K:なるほどね! あとは、実際に職場で作業することで、職場の雰囲気とか職員さんの働き 方を良く知れたことで、志望度が上がったな。雰囲気に好感を持てたよ。ここでなら自分 も働きたいなと思えた。
- T.U: そうよね! 自分も実際より志望度は上がったし、雰囲気とか職員さんの人柄とかを知れたのは本当に良かったと思ってる。

そういえばさ、環境省のインターン要望書の様式ってめっちゃザックリしてるじゃん。 Y.Kはどういうことを意識して要望書書いた?

- Y.K:たしかにそうだったなぁ。自分が意識したことは、とにかく具体的に書くことかな。 さっきも言ったけど、自分の大学で開催された低炭素社会推進室主催のイベントで学んだ こと、感じたことや芽生えた問題意識を書いたから、自分にしか書けない志望動機が出来 上がったとは思う。それがいいアピールにつながったかなと。
- T.U:確かにイベントに出席してたことを書くとポイントは高そう! 実は僕は大学3年の時にもインターン要望書を書いてるんだけど、落ちてるのよね笑。締め切りの直前に知って慌てて書き上げたのが最大の敗因ではあるんだけど、大学院の時には①環境省を志望する理由、②その中で特定の部署を志望する理由、という2段構成で書いたら上手くいった気がする!

部局の情報を上手に探さないといけないのが大変だよね。例えばプラスチック問題について取り組みたいって思っても、それがどこの部署が担当してるのかわからないってことがあってちょっと困ったこともあったかな。もちろん色々な部局で担当はしているはずだけど、学生がパッとわかるような表とかあるとすごくありがたかったなって思うよね~。あとはやっぱり、2枚の制限内でビッチリと書くこと!笑 やる気を見せたらきっといい方向にいく気がするな。

Y.K:改めて振り返ると、長期インターンのメリットってかなり大きかったよね。笑

T.U: まあそうだよね。環境省第一志望の人からするとメリットしかない。笑 でも今年の内定者の大部分も長期インターンしらなかったし、長期のサマーインターンやってなくても全然大丈夫だよね。内定ってところを意識するならば、むしろ官庁訪問でしっかり自分のポテンシャルをアピールすることが大切だろうね!

## 座談会 ~地方学生へのアドバイス~

#### 人物紹介

A.A 東北大学大学院 説明会参加回数 :20回以上 予備校:有 E.K 京都大学 説明会参加回数 :2~3回 予備校:有 Y.T 大阪大学 説明会参加回数:1回 予備校:無

#### ~情報の集め方~

A.A:俺は仙台に住んでるけど、みんなどこに住んでるんだっけ?

E.K:私は大阪。

Y.T:僕も大阪だよ。

E.K: A.Aは割と都会なところ?仙台の中の

A.A:都会から5kmぐらいかな。結構緑豊か。笑

E.K:なるほど。笑 説明会とか情報集めるの苦労した?

A.A:学部生の頃にも説明会に行ったんだけど、そのときは苦労したなぁ。

E.K:どう苦労した?

A.A:学部生の頃は大学生協の講座で色々説明会情報言ってくれてたけど、大体が合同説明会で、 個別の説明会がいつあるのかとか伝わってこなかったんだよね。。後で聞いたら、やってま したみたいな。笑

E.K:説明会の回数自体は普通ぐらいあった?

A.A:採用担当の方も地方に来る機会がかなり少なくて、学部の頃には1、2回ぐらいしか参加できなかった...。

E.K:やっぱそうなんや。

Y.T: 僕の大学は年に2回ぐらい合同説明会があったかな。

E.K: 私も大学でそんな感じやった! 個別の説明会情報は確かに自分から探さないとあんまり入ってこないかな。

Y.T: 大学の掲示板で流れてきた情報を受け身で見てたからもっと積極的に探せばよかったと後悔してる。

E.K: うんうん。

Y.T: 来年以降はオンラインも増えそうだから探せば参加できる説明会も多いと思うね。

E.K: たしかに! 環境省のホームページとかマイページ見たら地方での説明会も載ってるやんね?

Y.T: 載ってる! こまめにチェックしてぜひ参加して欲しい。

A.A:マストですね! オンラインになる前後で2人は説明会って何回ぐらい参加した?

Y.T:環境省の説明会は大学3年のときに大学に来てくれた1回だけだった。

A.A:オンライン後も?

Y.T: オンライン後は参加できなかったな。勉強に夢中で情報を逃してた。

E.K:私は2年生ぐらいの頃から大学でやってる合同説明会とか機会があるたびにちょいちょい参加してたから、あんまり回数は正確には分からんねんけど、オンライン前は合同・個別説明会ともに2~3回ぐらいかなぁ。オンライン後は私も参加してない。A.Aはオンライン後の説明会参加した?

A.A:実は20回近く参加してる。笑

Y.T: すごい!

A.A:オンライン後に開催されるほぼすべてに参加してた。笑

E.K: すごいな。笑 毎回違う内容やったりしてたん?

A.A:全く違う! 各回テーマが決められていて、その部署の担当の方に現場感のある話をしていただけて、かなり面白かった!

- E.K: そうなんや! 参加したかった…。それってオンラインやからできたことやったりするんかな? 普段の地方での個別説明会やと、政策シミュレーションとか現場の人が話してくれるものもあるけど、だいたいは採用担当の方が話してくれる感じな気がする。で、省庁で開催されている説明会は割と現場の方が講演されてたり。
- Y.T:確かに! 自分が参加した会もそうだった。環境省の情報は説明会で得るとして、試験勉強とか官庁訪問対策の情報はどこで手に入れてた?

E.K:私は予備校やね。

A.A:大学生協の講座だった。

E.K:生協でそんな講座やってくれるんや!?

A.A:大学生協主催の講座があって、そこで人事院面接とかの練習してた。

E.K: うちの大学もそんなんあったんかな...。Y.Tは?

Y.T:僕は独学で先輩もいなかったからかなりネットの情報を頼ってたな。なんだかんだ「内定者の声」はネット上なら一番参考になると思う。

E.K:たしかに。Y.Tは大学とかでなにか講座とかなかった?

Y.T:生協の講座やってたけどお金をケチって行かないことにした。

E.K:なるほど。笑

#### ~地方のメリット~

Y.T: 地方で国総めざしてて何かよかったことあった?

A.A:やっぱり官庁訪問で地元愛を語れたことかな。笑

Y.T:僕も地元が近い方と話をして盛り上がった!

A.A: 今は仙台に住んでるけど、地元が福島だから、1時間半ぐらいで実家に帰れて親とかから 色んな話が聞けたのは凄く参考になったな。

E.K: なるほどね! 私は、働き出したらもしかしたら東京とか都会ではないところの雰囲気・人々の暮らしとかを知っていることがプラスに働く(社会への認識のずれを少しはなくせる?)かもと思ったりするけど、試験を受けたり、官庁訪問したりする上では地方だから良かったことっていうのは特に思いつかへん...。

#### ~地方のデメリット~

Y.T:確かに。逆に地方だったことでデメリットを感じたことはある?

A.A:やっぱり学部生の頃は時間とお金の制約は感じざるを得なかった...。ただ院生になってからは今回のオンライン化でその辺の制約はほぼなくなった気がする! 2人はどう?

E.K:確かに、官庁訪問がオンライン開催になったことで、負担はほぼなくなったと思う!本来なら、東京まで行って宿の予約もして、しかもその宿での宿泊日数も官庁訪問のどのタームまで残れるかで変わってきたりとかもあったやろうし、大変やったと思う。

A.A:そうだよね。俺もオンラインじゃなければ20回近くも説明会に行けてない。笑

Y.T:僕は公務員を目指す人が東京と比べて相対的に少ないから身近に仲間がいないのが寂しか った。

A.A:ああ、それはある。

E.K:確かに、相談できる人がいないよね。笑

A.A:Y.Tは独学だしね

Y.T:でも環境省のサマーインターンで知り合った人と連絡取り合って何とか士気を高めてた。 あと高校時代の友達とか。

E.K: そういうの大事やね!

Y.T:情報交換もできるし仲間は作って欲しい!

E.K:私も説明会で知り合った人と情報交換したりしてた!

A.A:俺の場合は研究室のOBかな。職種は違うけど。情報交換は絶対。

E.K: 意外と仲間を作るチャンスはあるから、機会を逃さず多くの人と仲良くなって欲しいね。

Y.T: 5ん!

環境省
Ministry of the Environment
令和3年度 環境省総合職事務系内定者

#### [注意]

本冊子の記載事項は、内定者の私見に基づくものであり、 環境省の意向を反映したものではありません。 なお、デザイン・画像編集にはCanva(https://www.canva.com/)を使用しました。